

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋建築環境性能評価システムマニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	東亜電気工業会 株式会社 名古屋支店	階数	地上7F、地下1F
建設地	名古屋市東区葵二丁目1番17号	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	45 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,500 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年8月 予定	評価の実施日	2020年4月16日
敷地面積	467 m ²	作成者	
建築面積	300 m ²	確認日	2020年2月15日
延床面積	2,270 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE ★★★★★ (5 stars)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項	
総合	<p>執務空間等の業務スペースを「オフィススペース」、テラス部分を「ライフスペース」としてとらえ、仕事に来るための事務所ではなく、生活と憩いの空間を持つ、事務所に来ることが楽しいと思える建物を計画した。</p>
その他	
Q1 室内環境	<p>快適なオフィス空間とするために、温湿度環境では中間期は心地よい自然通風を取り入れられるように計画した。照明は快適な業務ができる照度設定とした。残響音を考慮し、吸音性のある内装材を選定した。</p>
Q2 サービス性能	<p>OAフロアや多目的に利用できる会議室などを計画し機能面に配慮し。また社員がリラックスや社内交流に活用できるスペースとしてテラスやリラクスペースを計画した。また社員が一堂に会して食事できるランチスペースも計画した。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>限られた敷地面積であったが、外構やテラスに植栽を設け、緑が感じられ、瑞々しく華やかな気持ちを感じるような空間を計画した。</p>
LR1 エネルギー	<p>外装材は熱低効率の高い軽量気泡コンクリートを採用し、またウレタン吹付断熱材を付加することで外皮負荷の低減を図った。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>外装材には高耐久の塗料等を採用し、維持管理費を抑えるとともに、維持管理に係るエネルギー削減に寄与する計画とした。</p>
LR3 敷地外環境	<p>敷地内環境並びに、周辺建物へ配慮し、空調屋外機は建物の東側の屋上に設置し、地上部への歩行者に配慮するとともに、高層マンションへの排熱の影響に対して配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

東亜電気工業会 株式会社 名古屋支店

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.7
LR1	エネルギー	3.9	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.6
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.7



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3.3.1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3.2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3.3.1の全体に対する重みに0.2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3.2.3のうち、LR3.2.3.3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3.2.3の評価点とは異なるものである。